

春日井シンポジウムとは

平成5年市制50周年を迎えた春日井市は、地域からの歴史・文化の全国発信をめざし、森浩一氏を中心に「古代史シンポジウム」を企画しました。これが現在まで「春日井シンポジウム」としてつづいています。

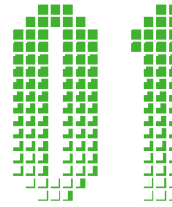


過去、参加者千人を超える規模の「シンポ」は、10年続いた富山の「日本海シンポ」が最長でした。春日井シンポは、平成16年に12回目を迎えます。毎回北海道から九州まで、幅広い古代史ファンの熱い支持を得ながら、さらに継続してまいります。

第8回シンポでは「東海学」が誕生しました。森氏の提唱で、これまでの地域重視の視点が結実した一つの「到達点」です。関東と関西に挟まれ、時に、文化の谷間と評されてきた東海、しかし谷間は接点であり、歴史の大きな転換点では必ず表舞台に登場します。その東海がもつ地域的特性を、今一度原点に立ち返って検証する試み、それが地域学としての「東海学」です。



春日井市を流れる庄内川 遠く高蔵寺ニュータウンを臨む



春日井市制50周年記念春日井シンポジウム 継体大王と 尾張の目子媛 平成5年6月5日・6日



■第一部／尾張古代史再発見

〈基調報告〉

尾張の主要古墳	名古屋明德短期大学講師	松原 隆治
美濃の主要古墳	大垣市教育委員会	中井 正幸
味美二子山古墳と下原古窯	春日井市教育委員会	大下 武
尾張の埴輪と土器	(財)愛知県埋蔵文化財センター	赤塚 次郎
尾張と美濃の鏡	南山大学教授	伊藤 秋男

〈記念講演〉

継体大王と妃たち	作家	黒岩 重吾
----------	----	-------

■第二部／継体大王と尾張の目子媛

〈基調講演〉

河海の交通と尾張～中世史からの提言～	神奈川大学短期大学部教授	網野 善彦
古代の尾張と尾張氏	南山大学教授	新井喜久夫
文献からみた継体大王と春日部	京都府立大学名誉教授	門脇 禎二
考古学から見た継体大王	同志社大学教授	森 浩一
越と尾張の接点・飛驒と美濃	三重大学教授	八賀 晋

□誌上参加

「下原窯群出土埴輪の化学特性とその供給先」	奈良教育大学教授	三辻 利一
「神領銅鐸について」	(株)三宝伸銅工業	久野雄一郎
「神領出土銅鐸の復元にあたって」	同志社大学講師	佐古 和枝



二子山を中心とする味美古墳群